

- 妊婦健診での血液検査でHTLV-1を持っているかどうかを調べることができます。
- HTLV-1に感染していた場合でも、発病を意味するものではなく、ATLについては、感染から40年以上経過した後に、ごく一部の人（年間感染者1,000人に1人の割合）に発症すると言われています。
- お母さんがこのウイルスを持っていると、母乳を介するなどして、赤ちゃんがHTLV-1に感染する可能性があります。
- HTLV-1に感染している場合は、授乳方法を工夫することで、赤ちゃんがHTLV-1に感染する可能性を低くすることができます。



何らかの細菌やウイルスなどがお母さんから赤ちゃんに感染することを「母子感染」と言います。赤ちゃんへの感染を防ぐとともにお母さん自身の健康管理に役立てるために、妊娠中に感染の有無を知るため抗体検査をします。

HTLV-1抗体検査も妊婦健診で行う検査の1つです。

もし検査でキャリアであることがわかった場合には、お母さんから赤ちゃんへの感染をできる限り防ぐため、適切な予防対策について保健指導が行われます。

HTLV-1については、
県内の各保健所で相談を受け付けています。
お気軽にご相談ください。



● 県内保健所相談窓口

月～金曜 8:30～17:15

保健所	電話番号	住所
徳島	088-602-8907	徳島市新蔵町3-80
吉野川	0883-36-9018	吉野川市鴨島町鴨島106-2
阿南	0884-28-9876	阿南市領家町野神319
美波	0884-74-7343	海部郡美波町奥河内 字弁才天17-1
美馬	0883-52-1018	美馬市穴吹町穴吹字明連23
三好	0883-72-1123	三好市池田町マチ2542-4

HTLV-1について

知っていただきたいことがあります！



HTLV-1は、
ATL（白血病の一種、中高年以降に発症）や
HAM（神経疾患）の原因となるウイルスです

HTLV-1 検査の流れ

※全て血液検査

妊婦健診・HTLV-1 抗体検査

※陽性の場合

確認検査

陽性

判定保留

陰性

PCR法

HTLV-1 感染予防対策について

HTLV-1 に感染していることが分かった場合は、授乳について相談することになります。

これは母子感染の大部分が母乳を介しているからです。

母乳中に HTLV-1 に感染した細胞が含まれているために、母乳を飲ませ続けた場合、赤ちゃんの 5～6 人に 1 人が感染（感染率 15～20%）することが知られています。

対策として、

- ① 授乳をしないで、人工栄養（粉ミルク）を与える
 - ② いったん家庭用の冷凍庫で 24 時間凍らせた母乳を解凍してから哺乳びんで与える
 - ③ 短期間（3 か月以内）のみ授乳する
- などの方法があります。

こうした方法を選択すれば、母子感染の割合を 30～40 人に 1 人（3%程度）に減少することができます。

※母乳を一滴も与えないで完全人工栄養を行った場合でも約 3%程度感染が起こります。この原因は明らかになっていません。

Q 妊婦健診で HTLV-1 が陽性と言われました。どうしたらよいのでしょうか？

A まずは確認検査が必要になります。健診での HTLV-1 抗体検査はスクリーニング検査で、陽性と判定された方の中には、感染していない方も含まれているからです。

Q HTLV-1 確認検査で、結果が『判定保留』でした。どういうことですか？

A 確認検査の結果が判定保留の場合、一定の割合で HTLV-1 に感染している人もいますが、全く感染していない人もいます。さらに、PCR法という検査でより詳しく調べることができます。

医師等から十分に説明を聞いていただいた上で、授乳をどうするかはお母さんの意志で決めることができます。

詳しいことは、産科の主治医や助産師、地域の保健師等とご相談ください。

